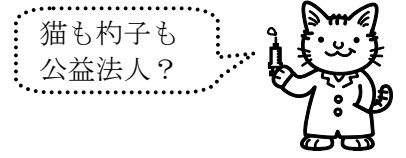


## <オピニオン> 一般法人か、それとも公益法人か！

【スーツ選びと法人制度の共通点・・・合うか、合わないか、それが問題だ！】

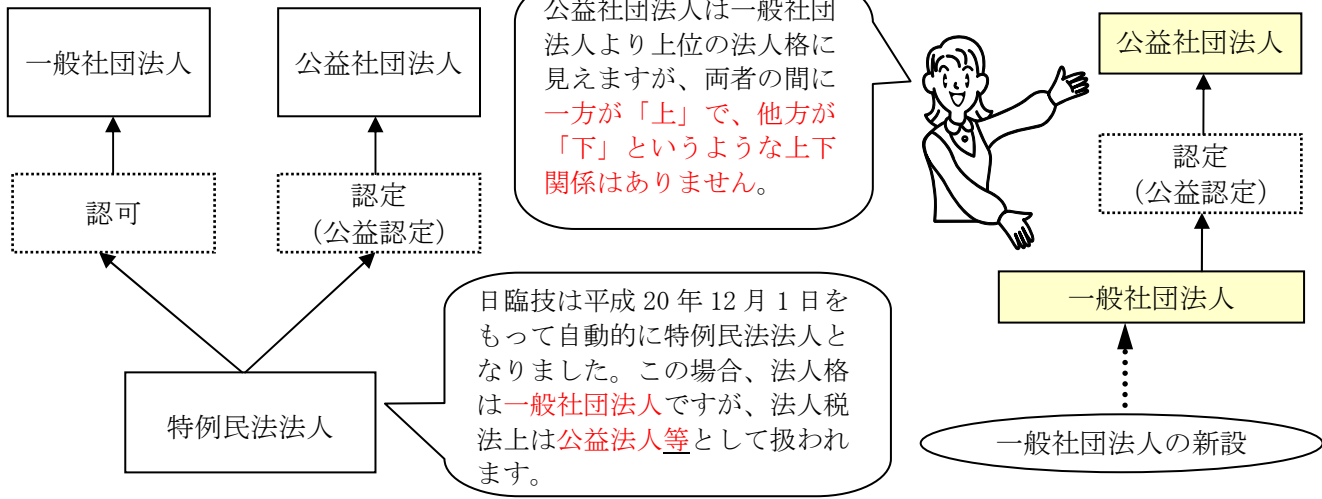


自分の体型に合ったスーツをお選び下さい。窮屈だと体を動かすのが大変ですよ。

技師会は職能団体ですので、職能団体に合った法人制度を選択する必要があります。



### 【一般社団法人と公益社団法人】



#### 1. はじめに

日臨技定期総会（平成 21 年度の第 2 回定期総会）の議案書に『公益認定への検討を推進したい。』と明記してあるので、いまさら一會員の私が『一般法人か、それとも公益法人か』と言っても仕方ないのかもしれませんが、敢えて問題提起をしてみたいと思います。

#### 2. 合うか、合わないか、それが問題だ！

平成 20 年 12 月 1 日から施行された新公益法人制度を 2 階建ての家に例えて『1 階は一般社団法人で 2 階は公益社団法人です。』という説明を聞くと、一般社団法人は下位の法人格で、公益社団法人は上位の法人格だと思ってしまうようですが、一般社団法人と公益社団法人との間に上下関係があるわけではありません。要は、『技師会に合った法人制度を利用して下さい。』という話なのです。しかし、**どちらの法人制度が技師会に合うか、合わないか**、という検討を詳細にする前から『結論ありき』で話が進んできたように感じているのは私だけでしょうか。

#### 3. ステータスは公益社団法人のほうが上なのか？

『社会的な評価が高まる』というのが公益法人化のメリットとして挙げられることが多いのですが、他方、公益法人には『不正の温床や不正の隠れ蓑になってきた』という暗い側面もあります。したがって、公益法人化すればステータスが上がる！という話を額面通りに受け取ることはできません。そもそも、『猫も杓子も公益法人！』というのは胡散臭いと思いませんか？

#### 4. 慈善団体と職能団体の違い

前述の議案書に『本会は会費収入を主たる財源とし〜』とあるように、日臨技は、寄附金を主たる財源としている団体（例えば、慈善団体など）とは異なり、會員が納める会費で運営されている職能団体です。したがって、會員のための**共益事業**を軽視して、

寄附金で運営されている慈善団体のように**公益事業**を重視するというわけにはいかないと思うのです。もっとも、専門職である臨技の社会的使命として我々が公益事業に取り組むのは当然ですが、**技師会は慈善団体ではなく、あくまでも職能団体**ですので、**共益事業と公益事業のバランス**にも留意する必要があります。

#### 5. 臨技の地位向上に向けた取り組み

女性部会の提言書（会報 JAMT3 月号）に載っていた『地位向上に向けた取り組み』というのは、まさに職能団体が取り組むべき命題の一つであります。ところで、**不特定かつ多数の者**の利益の増進に寄与すること、すなわち公益目的事業を主たる目的とするのが公益法人ですので、日臨技が職能団体として**特定の者**（臨技）の地位向上に全力で取り組むのであれば、もはや“公益法人”という選択肢はなくなると思うのです。仮に公益法人への道を選択するのであれば、**特定の者**（臨技）の地位向上よりも**不特定かつ多数の者**の利益の増進に向けた取り組みを優先する、ということになりますよね。

#### 6. おわりに

旧制度の下では、共益活動を主とする非営利団体（職能団体）に適した法人制度がなかったので、**法人格取得のために職能団体が公益法人の看板を掲げる**ことになってしまいました。はたして、新制度の下でも『**看板は公益法人だけど中身は職能団体**』という不一致がまかり通るのかどうか・・・公益法人になるのであれば、当然“職能団体の色”を消さなければならないはずですよ。

女性部会の提言書にあった『**日臨技の本来の役割**』について、じっくり考えてみようではありませんか。

※本投稿で使用したイラストは、筆者がユーザー登録をしている市販のイラスト集のものです。

【新屋 博明】